

Jプレミアム・インカムファンド
(年1回決算型)

第4期運用報告書（全体版）

(決算日 2025年10月28日)

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／国内／株式
信託期間	2022年7月27日から2032年10月28日まで
運用方針	信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。
主要運用対象	外国投資信託証券である「UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)III-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)」および国内の証券投資信託である「マネーアカウントマザーファンド」受益証券を主要投資対象とします。
	UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)III-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(資産成長型クラス) 担保付スワップ取引を通じて、実質的に代表的な日本の株価指数を原資産としたピットオプションを売却する想定上の取引戦略に対するエクスポートエージャーを提供することにより、中長期的な資本成長の提供を目指して運用を行います。
	マネーアカウントマザーファンド わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	投資信託証券への投資割合には制限を設けません。 株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は行いません。
分配方針	毎決算時(10月28日、休業日の場合は翌営業日)に分配を行います。 分配金額は、分配対象額の範囲内で、基準価額水準、市況動向等を勘案して、委託会社が決定します。ただし、必ず分配を行うものではありません。

お客様へ

毎々格別のお引立てにあずかり厚く御礼申し上げます。
さて、「Jプレミアム・インカムファンド(年1回決算型)」は、2025年10月28日に第4期決算を行いましたので、
期中の運用状況をご報告申し上げます。
今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

今後ともより一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

 T&Dアセットマネジメント株式会社

〒108-0014 東京都港区芝5-36-7

お問い合わせ先
投信営業部 03-6722-4810
(受付時間：営業日の午前9時～午後5時)
<https://www.tdasset.co.jp/>

設定以来の運用実績、基準価額の推移等

設定以来の運用実績

決 算 期	基 準 価 額		債 券 組入比率	債 券 先物比率	U B S ユニバーサル・ トラスト(ケイマン)III-日本株式 プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定) (資産成長型クラス) 組入比率	純 資 産 額
	(分配額)	税込み 分配金				
設定日 2022年7月27日	円 10,000	円 —	% —	% —	% —	百万円 637
1期(2022年10月28日)	10,095	0	1.0	—	—	98.5
2期(2023年10月30日)	10,218	0	1.2	—	—	98.7
3期(2024年10月28日)	10,313	0	0.9	0.2	—	98.9
4期(2025年10月28日)	10,821	0	4.9	0.3	—	98.8
						5,120

(注) 基準価額および分配金は1万口当たり。基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 設定日の基準価額および純資産総額には、当初元本を用いております。

(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること、特定の指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額		債 券 組入比率	債 券 先物比率	U B S ユニバーサル・ トラスト(ケイマン)III-日本株式 プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定) (資産成長型クラス) 組入比率
		騰落率			
期首(前期末) 2024年10月28日	円 10,313	% —	% 0.2	% —	% 98.9
10月末	10,421	1.0	0.2	—	98.5
11月末	10,470	1.5	0.2	—	98.5
12月末	10,502	1.8	0.3	—	98.7
2025年1月末	10,519	2.0	0.3	—	98.5
2月末	10,540	2.2	0.3	—	98.5
3月末	10,566	2.5	0.3	—	98.5
4月末	10,601	2.8	0.3	—	98.5
5月末	10,665	3.4	0.3	—	98.8
6月末	10,695	3.7	0.3	—	98.5
7月末	10,727	4.0	0.3	—	98.5
8月末	10,750	4.2	0.3	—	98.8
9月末	10,775	4.5	0.3	—	98.8
期 末 2025年10月28日	10,821	4.9	0.3	—	98.8

(注) 基準価額は1万口当たり。期末基準価額は分配金込み。騰落率は期首比。

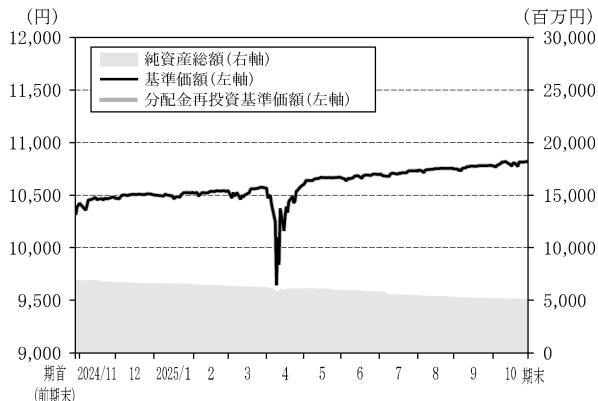
(注) 当ファンドは親投資信託を組入れますので、債券組入比率および債券先物比率は実質比率を記載しております。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは、特定の指数に連動すること、特定の指数を上回ることを目的として運用していないため、また、運用方針に対し適切な指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額等の推移



第4期首：10,313円

第4期末：10,821円(既払分配金0円)

騰落率：4.9% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、期首(2024年10月28日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

(注) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

■ 基準価額の主な変動要因

高位に組入れている「U B S ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)」において、プットオプションの売却によるプレミアムがプラス寄与した結果、基準価額(分配金再投資ベース)は上昇しました。

■ 投資環境

【株式市況】

日経平均株価は、期初から2025年2月中旬にかけては、レンジ内での一進一退の展開となりました。2月下旬から3月上旬にかけては、トランプ米大統領の関税政策を巡る不透明感などが重荷となり、下落しました。3月中旬には、米著名投資家による日本の商社株買い増し報道が好感される局面などもありましたが、その後、トランプ米大統領が発表した相互関税が想定以上に厳しい内容となつたことや、中国が報復関税を発表したことなどにより、関税の応酬が世界経済の急減速につながるとの警戒が広がり、4月上旬にかけて大幅に下落しました。米政権による相互関税の一部の一時停止の発表や米中貿易摩擦緩和への期待から反発した後、期末にかけては、利益確定目的の売りが重荷となる局面などもありましたが、A I(人工知能)ブームを受けた半導体関連株の活況や、日米関税交渉の合意、F R B(米連邦準備制度理事会)による利下げ継続期待、高市新政権への期待などを背景に、上昇基調で推移しました。

■組入ファンドの当期中の騰落率

組入ファンド	騰落率
U B S ユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)	6.2%
マネーアカウントマザーファンド	0.4

【国内短期金融市況】

国庫短期証券3ヵ月物利回りは、期首の0.02%から期末は0.43%となりました。期中においては、日銀の追加利上げに対する思惑や国庫短期証券の入札に伴う需給悪化懸念などが金利上昇要因となり、金融機関の担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

【当ファンド】

期を通じて、「UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)III-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)」を高位に組入れ、「マネーアカウントマザーファンド」にも投資を行いました。

【UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)III-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)】

ユービーエス・エイ・ジー ロンドン支店を相手方とする担保付スワップ取引を通じて、日経平均株価を原資産とした満期約1ヵ月、権利行使価格が日経平均株価の92%となるプットオプションの売却を行う戦略である日本株式プレミアム戦略の投資成果を実質的に享受することを目指す運用を行いました。

【マネーアカウントマザーファンド】

国庫短期証券を50%超組入れました。残りの資産については、コール・ローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 分配金

1万口当たりの分配金(税込み)は基準価額水準、市況動向等を勘案し、見送らせていただきました。収益分配に充てなかつた利益は、信託財産中に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

■ 今後の運用方針

【当ファンド】

「UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)III-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)」の組入比率を高位に保ち、もう一方の投資対象である「マネーアカウントマザーファンド」への投資も継続する方針です。

【UBSユニバーサル・トラスト(ケイマン)III-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)】

担保付スワップ取引を通じて、実質的に日経平均株価を原資産とした満期約1ヶ月のプットオプションの売却を行います。売却するプットオプションの権利行使価格をプットオプション構築時の日経平均株価の92%とすることで、日経平均株価の下落による損失を低減しつつ、プレミアムの獲得を目指します。

【マネーアカウントマザーファンド】

日本経済は、雇用・所得環境が改善する下で緩やかな回復が続くことが期待されます。インフレ率については、プラス圏で推移していくと予想されます。こうしたなか、日銀は利上げ姿勢を維持していくことが見込まれますが、依然として金融環境は緩和的であり、国内金利は比較的安定的に推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細(2024年10月29日から2025年10月28日まで)

費用の明細

項目	当期		項目の概要	
	2024/10/29～2025/10/28			
	金額	比率		
平均基準価額	10,602円		期中の平均基準価額です。	
(a) 信託報酬 (投信会社) (販売会社) (受託会社)	122円 (48) (70) (3)	1.149% (0.456) (0.660) (0.033)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価 運用財産の保管および管理、投信会社からの指図の実行等の対価	
(b) その他費用 (監査費用)	2 (2)	0.016 (0.016)	(b) その他費用＝期中のその他費用／期中の平均受益権口数 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用	
合計	124	1.165		

(注) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

なお、その他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 平均基準価額の円未満は切捨て、それ以外の各金額は項目ごとに四捨五入してあります。

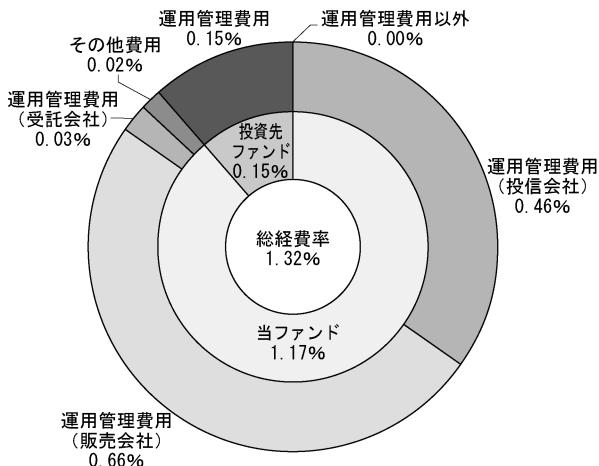
(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く。)が支払った費用を含みません。

(注) 「比率」欄は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額(原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。)を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額(1口当たり)を乗じた数で除した総経費率(年率)は、1.32%です。



総経費率 (①+②)	1.32%
①当ファンドの費用の比率	1.17%
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.15%
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.00%

(注) ①の費用は、1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組入れている投資信託証券(親投資信託を除く)です。

(注) ①の費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) ①の費用と②③の費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

売買および取引の状況(2024年10月29日から2025年10月28日まで)

(1) 投資信託証券

		買付		売付	
		口数	金額	口数	金額
外国 (邦貨建)	U B S ユニバーサル・トラスト (ケイマン)III-日本株式プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)	口 一	千円 —	口 190,990	千円 2,094,800

(注) 金額は受渡代金。単位未満は切捨て。

(2) 親投資信託受益証券の設定、解約状況

当期における設定、解約はありません。

利害関係人との取引状況等(2024年10月29日から2025年10月28日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細(2025年10月28日現在)

(1) ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

ファンド名	期首(前期末)	当期末		
		口数	口数	評価額
U B S ユニバーサル・トラスト (ケイマン)III-日本株式プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)	口 640,592	口 449,601	千円 5,060,265	% 98.8

(注) 比率は純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 口数・評価額の単位未満は切捨て。

(2)親投資信託残高

種類	期首(前期末)	当期末	
	口数	口数	評価額
マネーアカウントマザーファンド	千口 27,771	千口 27,771	千円 27,868

(注) マネーアカウントマザーファンド全体の受益権口数は47,960千口です。

(注) 単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成(2025年10月28日現在)

項目	当期末	
	評価額	比率
U B S ユニバーサル・トラスト (ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定)(資産成長型クラス)	千円 5,060,265	% 97.5
マネーアカウントマザーファンド	27,868	0.5
コール・ローン等、その他	103,708	2.0
投資信託財産総額	5,191,841	100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年10月28日現在

項目	当期末
(A) 資産	5,191,841,361円
コール・ローン等	103,705,581
UBSユニバーサル・トラスト (ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド (適格機関投資家限定) (資産成長型クラス) (評価額)	5,060,265,501
マネーアカウントマザーファンド(評価額)	27,868,993
未収利息	1,286
(B) 負債	71,312,702
未払解約金	38,711,608
未払信託報酬	32,139,815
その他の未払費用	461,279
(C) 純資産総額 (A - B)	5,120,528,659
元本	4,732,046,933
次期繰越損益金	388,481,726
(D) 受益権総口数	4,732,046,933口
1万口当たり基準価額 (C / D)	10,821円

(注) 期首元本額 6,653,184,790円
 期中追加設定元本額 11,437,281円
 期中一部解約元本額 1,932,575,138円

(注) 1口当たり純資産額は1,0821円です。

損益の状況

当期 自2024年10月29日 至2025年10月28日

項目	当期
(A) 配当等収益	341,790円
受取利息	341,790
(B) 有価証券売買損益	309,839,601
売買益	367,458,428
売買損	△ 57,618,827
(C) 信託報酬等	△ 70,376,730
(D) 当期損益金 (A + B + C)	239,804,661
(E) 前期繰越損益金	85,671,580
(F) 追加信託差損益金	63,005,485
(配当等相当額)	(29,397,061)
(売買損益相当額)	(33,608,424)
(G) 合計 (D + E + F)	388,481,726
(H) 収益分配金	0
次期繰越損益金 (G + H)	388,481,726
追加信託差損益金	63,005,485
(配当等相当額)	(29,397,061)
(売買損益相当額)	(33,608,424)
分配準備積立金	325,476,241

(注) 損益の状況の中で
 (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
 (C) 信託報酬等には、信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。

分配金の計算過程

計算期間末における費用控除後の配当等収益(264,376円)、費用控除後の有価証券売買等損益(239,540,285円)、収益調整金(63,005,485円)および分配準備積立金(85,671,580円)より、分配対象収益は388,481,726円(1万口当たり820円)となりましたが、当期の分配は見送させていただきました。

分配金のご案内

分配金および分配原資の内訳 (単位:円・%、1万口当たり・税引前)

項目	当期
	2024年10月29日 ～2025年10月28日
当期分配金 (対基準価額比率)	0 —
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	820

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率で、ファンドの收益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

※分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合、分配金は全額普通分配金となります。

※分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

※分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

※元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、個別元本から元本払戻金(特別分配金)を控除した額がその後の新たな個別元本となります。

《お知らせ》

- 2025年4月1日適用で、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、信託約款の変更を行いました。
- 2025年7月26日適用で、信託期間を延長し、2032年10月28日までとする信託約款の変更を行いました。

補足情報

マネーアカウントマザーファンドの主要な売買銘柄

公社債(上位10銘柄)

(2024年10月29日から2025年10月28日まで)

買付		売付	
銘柄	金額	銘柄	金額
	千円		千円
第1290回国庫短期証券	1,253,737	第1287回国庫短期証券	833,762
第1287回国庫短期証券	849,726	第1303回国庫短期証券	646,770
第1303回国庫短期証券	725,730	第1286回国庫短期証券	469,804
第1238回国庫短期証券	685,879	第1283回国庫短期証券	406,894
第1286回国庫短期証券	514,765	第1280回国庫短期証券	402,926
第1283回国庫短期証券	406,921	第1254回国庫短期証券	394,984
第1280回国庫短期証券	402,890	第1269回国庫短期証券	321,938
第1269回国庫短期証券	331,192	第1220回国庫短期証券	229,953
第1220回国庫短期証券	238,939	第1257回国庫短期証券	209,484
第1257回国庫短期証券	209,498	第1226回国庫短期証券	93,988

(注) 金額は受渡代金(経過利子分は含まれておりません)。単位未満は切捨て。

マネーアカウントマザーファンドの組入資産の明細

下記は、マネーアカウントマザーファンド全体(47,960千口)の内容です。

公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債<種類別>

(2025年10月28日現在)

区分	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
国債証券	千円 29,000 (29,000)	千円 28,982 (28,982)	% 60.2 (60.2)	% — (—)	% — (—)	% — (—)	% 60.2 (60.2)
合計	29,000 (29,000)	28,982 (28,982)	60.2 (60.2)	— (—)	— (—)	— (—)	60.2 (60.2)

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は、原則として償却原価法により評価しております。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内(邦貨建)公社債<銘柄別>

(2025年10月28日現在)

銘柄	利率	額面金額	評価額	償還年月日
(国債証券)	%	千円	千円	
第1331回国庫短期証券	—	29,000	28,982	2025/12/15
合計		29,000	28,982	

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

組入投資信託証券の内容

ＵＢＳユニバーサル・トラスト(ケイマン)Ⅲ-日本株式プレミアム戦略ファンド(適格機関投資家限定)
(資産成長型クラス)(分配型クラス)

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

分類	ケイマン籍／外国投資信託／円建
運用の基本方針 主な投資対象	担保付スワップ取引を通じて、実質的に代表的な日本の株価指数を原資産としたプットオプションを売却する想定上の取引戦略に対するエクスポージャーを提供することにより、中長期的な資本成長の提供を目指して運用を行います。
投資態度	①担保付スワップ取引を通じて、実質的に代表的な日本の株価指数(参照指数)を原資産としたプットオプション(期間約1ヵ月)を売却する想定上の取引戦略に対するエクスポージャーを提供することにより、中長期的な資本成長の提供を目指して運用を行います。 ②売却するプットオプションの権利行使価格をプットオプション構築時の参照指数値の92%とすることで、参照指数の下落による損失を低減しつつ、プレミアムの獲得を目指します。 ③資金動向や市況動向等によっては、上記のような運用が行われない場合があります。
主な投資制限	①原則として、店頭オプションおよび上場オプションへの直接投資は行いません。 ②空売りを行った有価証券の時価総額が純資産総額を超える有価証券の空売りは行いません。 ③純資産総額の10%を超える借入れは行いません。 ④一発行会社の発行済総株式数の50%を超えて、当該発行会社の株式に投資しません。 ⑤流動性に欠ける資産の組入れは15%以下とします。 ⑥投資運用会社は、自己または投資信託受益証券以外の第三者の利益を図る目的の取引等は行いません。
決算日	9月末日
分配方針	(資産成長型クラス)原則として、分配を行いません。 (分配型クラス)原則として、3ヵ月毎に分配を行います。
投資運用会社	ＵＢＳマネジメント(ケイマン)リミテッド

※次ページ以降の記載は、組入投資信託証券の関係会社より入手した情報をもとに作成しております。当社は、その内容の正確性・完全性を保証するものではありません。

(1) (2) : UBS証券株式会社より入手した監査済報告書を、当社が一部和訳したものです。

(3) : ザ・バンク・オブ・ニューヨーク・メロン(シンガポール支店)より入手したデータをもとに作成したものです。

(1)各クラスの状況

作成基準日：2024年9月30日

	受益権総口数
資産成長型クラス	654, 508口
分配型クラス	361, 144
合計	1, 015, 652口

(注) 日付は現地基準です。

(2)損益計算書

計算期間：2023年10月1日～2024年9月30日

	単位：円
収益	
手数料収入	293, 736, 046
担保付スワップ取引に係る純損益	(38, 937, 074)
収益合計	254, 798, 972
 運用費用	 22, 383, 689
運用費用合計	22, 383, 689
 運用損益	 232, 415, 283
 分配前の期中の純資産変動	 232, 415, 283
 支払分配金	 (271, 352, 357)
 分配後の期中の純資産変動	 (38, 937, 074)

(注) 日付は現地基準です。

(注) ()書きは負数です。

(3)組入資産の明細

作成基準日：2024年9月30日

担保付スワップ

単位：円

クラス	想定元本額	評価額
資産成長型クラス	6, 545, 079, 796	6, 893, 278, 042
分配型クラス	3, 611, 442, 013	3, 535, 601, 731
合計		10, 428, 879, 773

(注) 日付は現地基準です。

マネーアカウントマザーファンド

運用報告書（全体版） 第31期（決算日 2025年6月10日）

（計算期間 2024年12月11日から2025年6月10日まで）

「マネーアカウントマザーファンド」は、2025年6月10日に第31期決算を行いましたので、期中の運用状況をご報告申し上げます。

◆当ファンドの仕組みは次の通りです。

信託期間	信託期間は原則無期限です。
運用方針	安定した収益の確保を目標として運用を行います。
主要運用対象	わが国の国債、公社債および短期金融商品を主要投資対象とします。
組入制限	株式への投資は行いません。外貨建資産への投資は行いません。

最近5期の運用実績、基準価額の推移等

最近5期の運用実績

決算期	基準価額	期騰落率	債組入比率	債先物比率	純資産総額
			%	%	
27期（2023年6月12日）	円 9,989	% △0.0	—	—	百万円 412
28期（2023年12月11日）	9,986	△0.0	—	—	1,911
29期（2024年6月10日）	9,983	△0.0	59.9	—	240
30期（2024年12月10日）	9,995	0.1	60.0	—	652
31期（2025年6月10日）	10,018	0.2	60.0	—	1,210

（注）基準価額は1万口当たり。

（注）先物比率＝買建比率－売建比率

（注）当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額	債券組入比率	債券先物比率	
			騰 落 率	%
期首 (前期末) 2024年12月10日	円 9,995	% —	—	60.0
12月末	9,997	0.0	60.3	—
2025年1月末	9,999	0.0	60.4	—
2月末	10,000	0.1	62.9	—
3月末	10,004	0.1	59.9	—
4月末	10,011	0.2	61.3	—
5月末	10,016	0.2	59.9	—
期 末 2025年6月10日	10,018	0.2	60.0	—

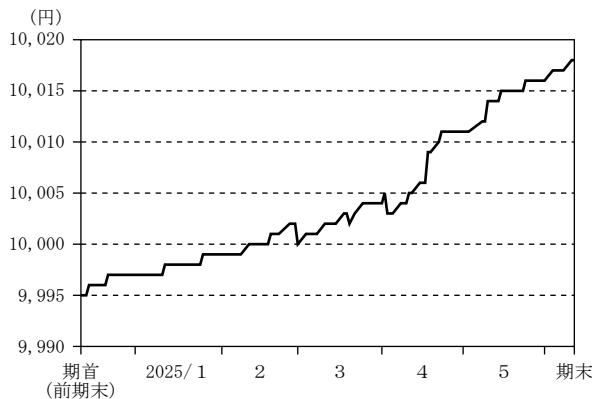
(注) 基準価額は1万口当たり。騰落率は期首比。

(注) 先物比率=買建比率-売建比率

(注) 当ファンドは安定した収益の確保を目指すファンドであり、ベンチマークおよび参考指数はありません。

当期の運用状況と今後の運用方針

■ 基準価額の推移



■ 基準価額の主な変動要因

基準価額は、期首の9,995円から期末は10,018円となりました。運用対象である国庫短期証券、コール・ローンの利回りがプラスであったことにより上昇しました。

■ 投資環境

【国内短期金融市況】

国庫短期証券 3 カ月物利回りは、期首の0.15%から期末は0.46%となりました。期中においては、日銀の追加利上げに対する思惑や国庫短期証券の入札に伴う需給悪化懸念などが金利上昇要因となり、金融機関の担保需要などが金利低下要因となりました。

■ 当該投資信託のポートフォリオ

国庫短期証券を50%超組入れました。残りの資産については、コール・ローン等で運用を行いました。

■ 当該投資信託のベンチマークとの差異

当ファンドはベンチマークおよび参考指数がないため、本項目は記載しておりません。

■ 今後の運用方針

日本経済は、雇用・所得環境が改善する下で緩やかな回復が続くことが期待されます。インフレ率については、プラス圏で推移していくと予想されます。こうしたなか、日銀は利上げ姿勢を維持していくことが見込まれますが、依然として金融環境は緩和的であり、国内金利は比較的安定的に推移すると予想します。

相対的に金利リスクの高い長期債への投資は見送り、国庫短期証券や短期金融商品等を中心とした安定的な運用を行います。

1万口当たりの費用明細 (2024年12月11日から2025年6月10日まで)

当期において発生した費用はありません。

売買および取引の状況 (2024年12月11日から2025年6月10日まで)

公社債

		買付額	売付額
国内	国債証券	千円	千円
		4,636,339	2,968,752 (1,333,300)

(注) 金額は受渡代金（経過利子分は含まれておりません）。単位未満は切捨て。

(注) ()内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

主要な売買銘柄 (2024年12月11日から2025年6月10日まで)

公社債

買付		売付	
銘柄	金額	銘柄	金額
第1290回国庫短期証券	千円 1,253,737	第1287回国庫短期証券	千円 833,762
第1287回国庫短期証券	849,726	第1286回国庫短期証券	469,804
第1238回国庫短期証券	685,879	第1283回国庫短期証券	406,894
第1286回国庫短期証券	514,765	第1280回国庫短期証券	402,926
第1283回国庫短期証券	406,921	第1269回国庫短期証券	321,938
第1280回国庫短期証券	402,890	第1220回国庫短期証券	229,953
第1220回国庫短期証券	238,939	第1257回国庫短期証券	209,484
第1257回国庫短期証券	209,498	第1226回国庫短期証券	93,988
第1269回国庫短期証券	73,980		

(注) 金額は受渡代金（経過利子分は含まれておりません）。単位未満は切捨て。

利害関係人との取引状況等 (2024年12月11日から2025年6月10日まで)

当期における利害関係人との取引はありません。

※利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

組入資産の明細 (2025年6月10日現在)

下記は、マネーアカウントマザーファンド全体 (1,208,340千口) の内容です。

公社債

(A) 国内（邦貨建）公社債＜種類別＞

区分	当期						期末
	額面金額	評価額	組入比率	うちBB格以下組入比率	残存期間別組入比率		
	千円	千円	%	%	%	%	%
国債証券	726,000 (726,000)	725,922 (725,922)	60.0 (60.0)	— (—)	— (—)	— (—)	60.0 (60.0)
合計	726,000 (726,000)	725,922 (725,922)	60.0 (60.0)	— (—)	— (—)	— (—)	60.0 (60.0)

(注) () 内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(注) 残存期間が1年以内の公社債は、原則として償却原価法により評価しております。

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

(B) 国内（邦貨建）公社債＜銘柄別＞

銘柄	当期				期末
	利 率	額面金額	評価額	償還年月日	
(国債証券)	%	千円	千円		
第1238回国庫短期証券	—	726,000	725,922	2025/6/20	
合計		726,000	725,922		

(注) 額面・評価額の単位未満は切捨て。

投資信託財産の構成 (2025年6月10日現在)

項目	当期		末
	評価額	比率	%
公社債	千円 725,922		60.0
コール・ローン等、その他	484,578		40.0
投資信託財産総額	1,210,500		100.0

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

資産、負債、元本および基準価額ならびに損益の状況

資産、負債、元本および基準価額の状況

2025年6月10日現在

項目	当期末
(A) 資産	1,210,500,871円
コール・ローン等	484,572,192
公社債(評価額)	725,922,660
未収利息	6,019
(B) 純資産額(A)	1,210,500,871
元本	1,208,340,718
次期繰越損益金	2,160,153
(C) 受益権総口数	1,208,340,718口
1万口当たり基準価額(B/C)	10,018円

(注) 期首元本額 652,364,714円
 期中追加設定元本額 6,675,689,744円
 期中一部解約元本額 6,119,713,740円

(注) 1口当たり純資産額は1,0018円です。

(注) 当マザーファンドを投資対象とする投資信託の当期末元本の内訳
 デジタルヘルス株式ファンド 6,788,498円
 Jプレミアム・インカムファンド(年1回決算型) 27,771,792円
 Jプレミアム・インカムファンド(年4回決算型) 17,939,969円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(インド・ダブルブル9) 20,025円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(インド・ダブルペア9) 20,025円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(中国・ダブルブル9) 20,025円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(中国・ダブルペア9) 20,025円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(NASDAQ100・ダブルブル9) 20,025円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(NASDAQ100・ダブルペア9) 20,025円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(金・ダブルブル9) 20,025円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(金・ダブルペア9) 20,025円
 T&Dダブルブル・ペア・シリーズ9(マネーブールファンド9) 1,155,680,259円

損益の状況

当期 自2024年12月11日 至2025年6月10日

項目	当期
(A) 配当等収益	1,518,260円
受取利息	1,518,260
(B) 有価証券売買損益	△ 89,118
売買益	35,023
売買損	△ 124,141
(C) 当期損益金(A+B)	1,429,142
(D) 前期繰越損益金	△ 302,985
(E) 追加信託差損益金	4,310,256
(F) 解約差損益金	△3,276,260
(G) 合計(C+D+E+F)	2,160,153
次期繰越損益金(G)	2,160,153

(注) 損益の状況の中で
 (B) 有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。
 (E) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差引いた差額分をいいます。
 (F) 解約差損益金とあるのは、一部解約の際、元本から解約価額を差引いた差額分をいいます。

《お知らせ》

2025年4月1日適用で、投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に伴い、信託約款の変更を行いました。